
Ⅳ つながりを生かし、 健康を守り支える環境づくり

施 策 分 野

- ・ 地域社会のつながりの醸成
- ・ 健康支援のための社会参加・社会貢献
- ・ 健康格差の実態と要因分析

1. 地域社会のつながりの醸成

I 現状と課題

一人ひとりの健康は、社会的環境や経済的環境の影響を受けています。このため、個人への対策のみでは解決できない問題に対し、健康を支え守るための環境づくりに取り組む必要があります。

それには、一人ひとりが積極的に社会参加しつつお互いを支えあい、地域や職場等における人とのつながりを深め、互いの健康な生活に関心を寄せるとともに、地域の民間団体、企業等多様な主体による健康づくりへの取組が重要となります。

地域のつながりと健康との関係について、ソーシャルキャピタルと健康との関連が指摘されています。ソーシャルキャピタルとは社会全体の人間関係の豊かさや社会的な問題に関わるボランティア団体等の自発的な団体の多様性を示し、地域・社会が繋がる力であるともいえます。

ソーシャルキャピタルが豊かであることにより健康増進を導く可能性があると指摘されています。様々な国の研究成果として、平均余命の長さや個人が持つ社会的なつながりの程度は関係していると示されています。個人が家族・友人・知人と緊密に繋がっていること、すなわちソーシャルキャピタルが豊かであることによって、社会生活によるストレスを低下させ、具体的な支援やケアを提供することになると解釈されています。

ソーシャルキャピタルは家族や仲間、職場などの様々なグループにより形成される社会的相互関係であり、学校、地域コミュニティ、企業、市民団体などもその要素となります。

阪神淡路大震災以降、先の東日本大震災においてもその復興過程において、ソーシャルキャピタルの重要性が指摘されており、健康を支え守るための環境づくりの一環として、地域社会におけるつながりを培っていくことが必要です。

特に未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生、その復旧や復興においては、家族や地域の絆や助け合いの重要性が再認識されたところです。

時間的、精神的にゆとりある生活の確保が困難な者、健康づくりに関心のない者なども含め、社会生活を営むために必要な機能の維持・向上を目指し、社会全体が相互に支え合いながら健康を守り合える環境づくりが望まれます。

Ⅱ 目標

目標項目	現状（H22 年）	目標（H34 年）
地域のつながりの強化(居住地域でお互いに助け合っていると思う人の割合の増加)		H25 年調査により設定

Ⅲ 県が実施する施策・取組の方向性

- 1 生涯教育、スポーツ、防災、福祉等すでに活動している様々な団体活動やコミュニティづくりの場において、健康づくりの視点を取り入れられるよう働きかけます。
- 2 先駆的な取組やソーシャルキャピタルの強化の成功事例などについて情報収集に努め、様々な場面で県民に発信します。

Ⅳ 県民・関係団体等の活動

県民・家庭	◇積極的に周囲の人と関わりを持てるよう努めましょう。 ◇地域や市民団体の活動に興味を持つようにしましょう。
市町村	◇行政が取り組む市民団体の育成やコミュニティ活動の場に健康づくりの視点を取り入れる工夫を進めます。
地域	◇年代を超えた人とのつながりを推進します。 ◇孤立を防ぐ工夫を取り入れます。
学校	◇学校・家庭・地域の連携に健康づくりの視点を取り入れる工夫を進めます。
保健・医療 専門職・団体	◇団体が実施する教室やイベントについて、利用の拡大に向けた広報活動を実施します。 ◇他の団体の活動にも関心を向け、ネットワークの形成に協力します。
医療保険者	◇時間的精神的ゆとりの無い加入者対策を推進します。